普及活動情勢報告（平成２３年２月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

１情勢報告

JA津野山管内農業改良普及推進協議会を開催しました

２月３日、津野山地域の農業者代表、JA津野山、椿原町、津野町の委員さんの参加のもと、協議会を開催し、平成２２年度の普及活動実績（営農連絡協議会プロジェクトチーム会活動実績）等を報告し、津野山地域の所得向上に向けた取り組み等について意見交換を行いました。また、平成２３年度普及指導計画の概要についても説明しました。

委員さんからは、「山でどうやってお金を取っていくか」について、園芸品目の低収量の原因究明・その対策の実施、山でできる品目等を組合せる、直販所での販売はいい物は高値で売る、今以上の個人面談での経営指導を行って欲しい等の意見が出されました。

振興センターでは、出された意見等を今後の普及活動に生かして行きます。

芳生野営農生産組合が第２期総会を開催しました。

２月13日、芳生野営農生産組合総会が開催され、22年度事業実績、23年度事業計画等が承認されました。利益について、組合事業への従事割合に応じて分配することが決まりました。

また、３月から１名が組合に加入して、米ナス作業に従事することが報告されました。

振興センターからは、任意組合についての説明を行い、芳生野営農生産組合の仕組みについての理解を促しました。

今後は、協業経営の確立（目標とする利益を上げられる経営規模、組織運営の目処が立つ）に向けた支援を行っていきます。

ＪＡ津野山花ニラ部会定例研修会を開催しました。

(JA津野山輝　会議室)

２月１６日、山間試験室及び部会長ほ場での現地実証成果の周知・普及を主目的とした研修会を開催しました。今までの定例研修会では,参加者が少なかったため、ＪＡからの会議案内文書に参加したくなるような見出しを付けて工夫してもらったので、参加者が９名と多くなりました。

省力・低コスト・多収・高品質につながる実証成果が上がり、参加者の関心が高く、質疑も多く活発な研修会となりました。その他の意見として冬期の生産量が少ないのに単価が低いので、単価を上げてもらいたいと言う要望がありました。

振興センターでは、今後とも部会員の生産安定化のために実証成果の普及を進めると共に、農協の販促活動や組織活動の支援を行っていきます。

１情勢報告

JA土佐くろしお管内農業改良普及推進協議会を開催しました

２月１８日、農業者代表、JA土佐くろしお、須崎市、中土佐町、津野町の委員さんの参加のもと、協議会を開催し、平成２２年度の普及活動実績等を報告し、意見交換を行いました。また、平成２３年度普及指導計画の概要について説明しました。

委員さんからは、ミョウガの花蕾腐敗対策・排液処理装置実証、キュウリのIPM 技術等について、意見、質問があり、今後積極的に取り組むことを話しました。

また「今農業経営が厳しいので、いつ経営支援農家になるかわからない」との意見があり、関係機関では関係部署と連携をとり迅速に対応出来るように取り組むことを話しました。

振興センターでは、出された意見等を今後の普及活動に生かして行きます。

元気の出る花き産地育成事業におけるデルフィニウムの栽培実証が進んでいます。

JA土佐くろしお試験ほ場において、有望品目としてデルフィニウムの試験栽培を行っています。これまで管内への導入に向けて、農家やJAとの先進地視察などによって、栽培上の課題を確認してきました。1月下旬から収穫が始まり、市場への試験的な出荷も行われました。

現在のところ、品種では「F1スーパーグランブルー」が栽培方法と市場評価から有望ではないかと思われます。

今後は2番花以降の栽培実証を行うとともに、経営試算によって有望性を判断していきます。

大野見産米エコ研究会の平成２３年度計画が決まりました。

２月１７日、大野見産米エコ研究会は、生産者１１名、役場、振興センターの出席で、平成２３年度の取り組みについて話合いを行いました。

その結果、特別栽培米の定着、普及を進めるために特別栽培米水準の実証栽培を９名が行う計画で、その合計面積は、約１ha になります。

また、大野見米の認知度を高めるために実証栽培で収穫された米１，０００ｋｇを使ってイベントでの販売を行う予定です。

振興センターは、引き続きこれらの取り組みに支援を行います。